

博物館だより



No.90

平成25年10月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666

小笠原文庫展Ⅲ

10月29日(火)～12月8日(日)

当館では、10月29日(火)から企画展「小笠原文庫展Ⅲ」を開催いたします。

小笠原文庫は、福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会が所有するもので、第2次大戦後に旧藩主・小笠原家から同会に寄贈された大名家文書を中心に、旧制中学校関係資料や旧藩士寄贈資料など、約7000点からなる資料群です。平成17年には福岡県の有形文化財(歴史資料)に指定されました(詳しくは裏面をご覧ください)。

今回の企画展では、膨大な数の資料から、小倉城下町の絵図や豊津藩・豊津県関係資料など約1000点を選んで展示いたします。ぜひ、ご来館ください。

■開催期間

平成25年10月29日(火)

～12月8日(日)

■開催場所

みやこ町歴史民俗博物館展示室

■観覧料

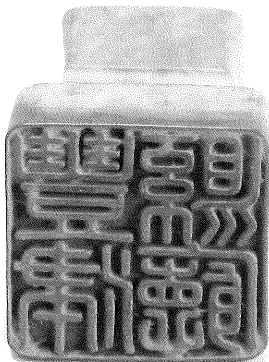
通常の常設展観覧料をご覧ください
だけです。大人200円、高校生以下100円

■ギャラリートーク(展示説明会)

11月30日(土)午前10時より、展示会場にて学芸員によるギャラリートークを開催します(実費資料代200円が必要です)

■真上から見てみよう！豊前国

小笠原文庫所蔵「豊前国絵図(元禄13年完成)」は、サイズが大きすぎて(約3m×4m)現物を展示をすると細かい部分が見えませんが、今回は同じ大きさの複製(プリント生地)を大分県立先哲史料館からお借りし、その上につけて国絵図を鑑賞できるようにします。ぜひ、真上から豊前国を見てください。



▶豊津県庁印(小笠原文庫蔵)

史跡散策バスハイク参加者募集!

博物館友の会では、次のとおり「史跡散策バスハイク」を実施します。

募集対象は友の会会員ですが、友の会には随時入会できます(入会方法は当館までお気軽にお問い合わせください)ので、会員でない方もこの際にご入会の上、ぜひご参加ください。

■日時 11月23日(土)

■目的地 朝倉郡東峰村・大分県日田市小鹿田方面(陶芸の里めぐり)

■参加費 お一人様3000円

■申込先 左記あて電話でお申込み下さい。後日詳細なご案内は、がきをお届けします
みやこ町歴史民俗博物館内
友の会事務局

TEL 0930-33-4666

10月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

10月5日(土) 9時30分～

【古文書講座】

10月12日(土) 10時00分～

【古典かな講座】

10月19日(土) 9時30分～

【金曜古文書講座】

10月25日(金) 10時00分～

【みやこ学講座】

10月26日(土) 10時00分～

9月の業務日誌から

9月8日(日)、犀川体育館で「黒田官兵衛の光と影」と題した特別講演会が開催されました。約400人の聴衆に「官兵衛・城井谷」物語への関心の高さが窺えました

9月11・12日(水・木)の2日間、勝山中学校から生徒2名が職場体験学習に来館されました。「博物館のお仕事」の大変さ・面白さを学んでいただいたようです



▲作業に真剣に取り組んでくれた生徒たち



▲大勢の聴衆にお越しいただいた講演会

みやこの歴史発見伝 68

福岡県指定文化財

小笠原文庫

再編集版

【所有者】福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会
【所在地】みやこ町歴史民俗博物館(寄託)

小笠原文庫とは

小笠原文庫とは何か、一言で説明すれば、「旧小倉藩主・小笠原家旧蔵の大名家文書を中心、旧藩士から寄贈された文書等および近代の中等教育資料等を含む約七千点の資料群」ということとなります。少し難しいでしょうか。

幕末の慶応二年(一八六六)八月一日、長州との戦いに敗色を見た小倉藩は、自ら城と城下町に火を放ち小倉を退去します。しかし、この城と城下町の「白焼」は、あまりにも突然のことであったため、城下の住民は、文字どおり取る物も取り敢えず小倉から出て行かなければなりません。直後に小倉へ入った長州の山縣狂介(有朋)は、その回顧録の中で、「小倉城内には食料、藩札(紙幣)、書画などそのまま、市街に人っ子一人無く、どの家も家財道具は全てそのままであった」と記しています。小倉城を「自焼」した経緯の説明は省きますが、とにかく、城内はもち

ろん、町全体が大変なパニック状態となったのです。

ギリギリセーフ

そんな中、城内にあった古文書や絵図の一部を運び出した人がいました。それが誰かは分かりませんが、おそらく数人のグループだと思えます。小倉城は、天保八年(一八三七)に火災に遭っていますので、その時に焼失した書類もあつたと思われませんが、それでも相当な量の書類が城内にはあつた筈です。具体的に、どのくらいの量の書類や絵図を小倉城から持ち出せたのか分かっていませんが、あやうく、全て焼失するか、長州に分捕られるところでしたので(藩校の教科書は一部分捕られました)、まさに「ギリギリセーフ」でした。

流転

その後、藩庁は田川郡香春を中心とした地域に置かれましたが、明治元年(一八六八)十一月、藩士百余名の投票によって、当時「錦原」と呼ばれていた豊津台地(現みやこ町豊津)に藩庁建設

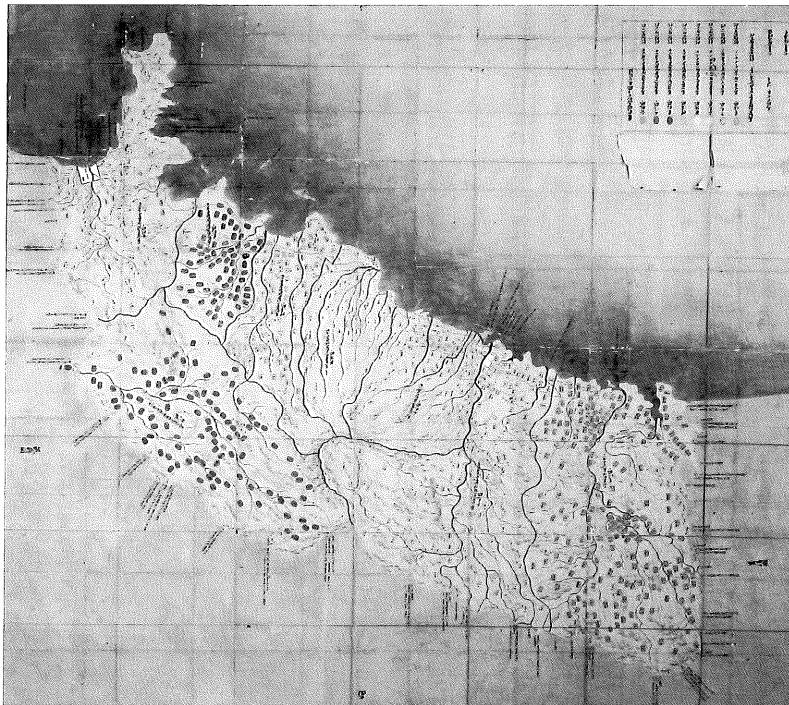
が決定したのです。工事は明治二年を中心に急ピッチで進められ、翌明治三年一月には、豊津の藩庁における執務が開始されています。この時期に、小倉城から持ち出された古文書類も、香春から豊津の藩庁へ運び込まれたものと思われまます。

しかし、せっかく建設した「藩都」豊津も、短命のうちにその役割を終えます。明治四年(一八七一)七月、廃藩置県により豊津藩は豊津県となり、旧藩主・小笠原忠忱(当時十歳)は、政府の指示により東京へ移り住むことになり

ました。さらに同年十一月、豊津県は小倉県に統合され、旧豊津県の土地・建物は小倉県のものとなりました。

御内家での保管

旧豊津県の役所の中で唯一、小倉県に取り上げられず、小笠原家の所有となったのが、民政局(領民支配全般を担当)の土地・建物です。場所は、現みやこ町立豊津小学校正門から北に約三十メートル、通称「御内家」と呼ばれている所です。豊津県・小倉県へ引き継がれなかった書類の多くは、この旧民政局の建



▲豊前国絵図(小笠原文庫所蔵) 元禄13年(1700)完成

幕府は、正保元年(1644)、元禄9年(1696)、天保6年(1835)の3度、全国の大名家に国絵図の作成を命じた。小笠原文庫は元禄の豊前国絵図(副本)を所蔵

物(小笠原家豊津別邸)に運び込まれました。その中には、小倉城から持ち出された古文書や絵図も含まれていました。以後、これら古文書類は、明治・大正・昭和と激動する時代の中で、所有者の変わらぬ施設内において保管され続け、廃棄・散逸の危機を免れたのでした。

戦後の受難と保存措置

昭和二十四年七月、小笠原家が豊津別邸を引き払うことになり、建物内に所蔵していた古文書・古記録類も処分されることになりましたが、一部が小笠原家から豊津高校(当時)・錦陵同窓会に寄贈されました。そしてこの資料群は、元々校内にあった育徳館時代以来の校史関係資料と合わせ、「小笠原文庫」の名が付されて、図書館の一室で保存されることになったのです。それからの「小笠原文庫」は、歴代の学校・同窓会関係者によって保存措置が講じられ、高度経済成長期からバブル景気、そして平成大不況という、ある意味混沌とした時代を、校内の安定した環境の中で送ることが出来たのでした。

小笠原文庫は、平成十七年二月に福岡県指定文化財となり、同年十月に旧豊津町歴史民俗資料館(現みやこ町歴史民俗博物館)に寄託され、現在に至っています。

(川本英紀)